

(6) ツガザクラの枝先に花柄がなくて直接花をつけ、花は白色で離弁花となり、花弁ははっきり数は数えられないが10枚以上あって大体楕円形のもの、奇形と思われるのでオバケツガザクラとする。

(7) シロウマアサツキの白花品、品種シロバナノシロウマアサツキとする。



写真 5. オバケツガザクラ

(8) クロトウヒレンの白花品で、品種シロバナノクロトウヒレンとする。

(9) テガタチドリとタムラソウの白花品は発表されている。

(10) フジハタザオの変種ウメハタザオ



写真 6. ウメハタザオ

〔植物ニュース〕 148. メリケンカルカヤが侵入

北米原産の本種は戦後名古屋付近に広がっていると長田氏の図鑑にあるが、近年気がついてみると、木曽では山口村神坂の廃田や道端に大群落をなし、大桑村野尻まで北進し、伊那谷でも天竜峡に一昨年現れた。今後上記地点から猛烈な勢いで北進するものと予想されるが有害植物の一種である。

(奥原弘人)

〔植物ニュース〕 149. チャルメルソウは県内にも

本県南部にはミカワチャルメルソウが分布し、チャルメルソウは近畿以西に分布すると文献では読みとれ、木曽郡山口村の木曽川緑の林内にはミカワチャルメルソウが多いが、同村でも少ないながらもチャルメルソウ形の花も見られ、その1株を自宅に植えて今春も花を観察した。

(奥原弘人)

〔植物ニュース〕 150. ミヤマウコギが下伊那に

1981年8月15日、建設省中部建設局の委託によって遠山川上流の調査を行っていて、北又渡の下流約1km辺の林内で、これを見つけた。南信濃村の地籍である。県下での記録がないようであるから初見と思われる。

(奥原弘人)

〔植物ニュース〕 151. クロバナウマノミツバが安曇村に

1986年7月23日、安曇村の斉藤岩男氏が1枚の葉を持って来訪された。一目見て驚いたのはクロバナウマノミツバであったからである。翌日同氏の案内で乗鞍岳に続く草地で数株を見、後日これより少し

離れた林内でも幾株かを見た。この種の分布は東北地方から本県までで、本県では東部にだけ見られ、この地は遙かに西へ飛んでいて重要な産地とみられる。

(奥原弘人)

〔新刊紹介〕 高橋秀男監修、「樹木大図鑑」北隆館、494頁、30,900円、平成3年4月発行。

この本は先に刊行された野草大図鑑の樹木編にあたるもので、同様の編集方針が採られている。日本に普通にみられる樹木を中心に(矮小低木を除き、タケやシュロなどの単子葉植物を含む)、沖縄や小笠原の種類や街路樹などに普通に見られる外来種も含めて1001種が取り上げられ、高橋秀男氏を含む11氏により分担執筆されている。各種について1-5葉の写真が与えられ、形態的な記載・名の由来・利用・類似種との区別点・生活型・分布・花期・果期が簡潔に与えられている。また、いくつかの種について、葉形や花序の形など写真で示し難い特徴を図で示してある。

全体に写真は鮮明で種の特徴を知るのに役立つが、高木の全体を写した写真のいくつかに不鮮明な写真がみられる。写真の多くは開花期の花のアップが多くなるのはやむを得ないが、開花していない樹木の同定をこの本で行うのは困難であろう。樹木の名前についてあまり知らない初心者が開花している樹木の名前について知りたいときや樹木の科の見当はつくが名前を確認するときに役立つ本といえよう。

(K. I.)